

No.	実施大学	授業科目名	担当教員	単位数	開講区分	曜日	予定回数	時間	実施場所	定員
102	拓殖大学	日本語文化基礎	近藤 真宣 外国語学部 教授	2	前期	火	13	9:20~11:05	拓殖大学 八王子国際キャンパス	5

【授業の目的及び到達目標】

言語表現のスタイルは、時、場所、相手によって変わります。また、それぞれの場合の「最適」なスタイルは、表現者の母語や背景とする文化によっても異なり、表現者と受け手の文化が異なることが誤解の原因となることもありえます。この授業の目的は、日本語の表現スタイルがどのように成り立っているのかを知ることにあります。表現スタイルを左右する要因を知ることによって、場面と文化を考慮した日本語表現スタイルを使用できるようになることを目指します。

【授業内容】

1. 言語と社会

予習課題へのフィードバックも交えながら、社会言語学の視点から、言語とその言語が使用される文化・社会の結びつきについて検討します。

2. 言語と文化

①復習課題（前回テーマ）へのフィードバック解説

②予習課題へのフィードバックも交えながら、言語相対性仮説の視点から言語と文化の関係について検討します。

3. 言語の普遍性と固有性

①復習課題（前回テーマ）へのフィードバック解説

②予習課題へのフィードバックも交えながら、異なる文化における世界認知のあり方と言語のあり方の間の普遍性と固有性について検討します。

4. 事態のとらえ方

①復習課題（前回テーマ）へのフィードバック解説

②日本語と外国語の事例をもとに、予習課題へのフィードバックも交えながら、事態のとらえ方がどのように言語表現に表れるのか検討します。

5. 人称代名詞と呼称語

①復習課題（前回テーマ）へのフィードバック解説

②日本語と外国語の事例をもとに、予習課題へのフィードバックも交えながら、アイデンティティの視点から人称代名詞と呼称語の使用について検討します。

6. 比喩表現

①復習課題（前回テーマ）へのフィードバック解説

②日本語と外国語の事例をもとに、予習課題へのフィードバックも交えながら、比喩表現について認知意味論の視点で検討します。

7. 感覚形容詞

①復習課題（前回テーマ）へのフィードバック解説

②日本語と外国語の事例をもとに、予習課題へのフィードバックも交えながら、メタファーと共感覚の視点から感覚形容詞について検討します。

8. 対人関係と表現

①復習課題（前回テーマ）へのフィードバック解説

②日本語と外国語の事例をもとに、予習課題へのフィードバックも交えながら、ラポール・マネジメントの視点から対人配慮の言語表現への表れ方について検討します。

9. メッセージの意味と意図

①復習課題（前回テーマ）へのフィードバック解説

②日本語と外国語の事例をもとに、予習課題へのフィードバックも交えながら、コンテキスト、会話の含みの観点からメッセージの意味と意図について検討します。

10. 会話スタイル

①復習課題（前回テーマ）へのフィードバック解説

②日本語と外国語の事例をもとに、予習課題へのフィードバックも交えながら、会話スタイルについて、検討します。

11. 地域的位相

①復習課題（前回テーマ）へのフィードバック解説

②予習課題へのフィードバックも交えながら、地域方言の特性、言語政策や共通語とのかかわりの視点から、日本語の多様性について検討します。

12. 社会的位相

①復習課題（前回テーマ）へのフィードバック解説

②予習課題へのフィードバックも交えながら、性差、世代差、メディアの視点から、日本語の多様性について検討します。

13. ことば遊び

①復習課題（前回テーマ）へのフィードバック解説

②日本語と外国語の事例をもとに、ことば遊びが成立する要件について、予習課題へのフィードバックも交えながら、言語面、文化面から検討します。

※拓殖大学の授業時間は、1時限 105分となっています。

【授業の方法】

講義形式を基本としますが、学生の思考を引き出し、理解を深めるための能動的学習を多用します。講義のテーマにもとづき、グループワークによる協働的な学びを行います。なお、授業用資料の配布や課題の提出、グループワーク結果の共有、質問受付は、MS Teams 上の授業チームで行います。

【予習・復習】

授業の使用教材と予習課題を B b と Teams で事前配信します。教材の確認と予習課題の提出が予習となります。また、授業後に出る「まとめメモ」課題で授業内容を振り返ることが復習となります。提出された課題ファイル、レポートには「コメント」でフィードバックをするので、それを確認することも復習になります。

【成績評価方法】

予習課題の提出・内容：30%、「まとめメモ」の提出・内容：30%、期末レポートの提出・内容（20%）、授業への参加度（発言、グループワーク成果など）：20% により成績評価をします。

【参考書、教材等】

教科書：次週の授業用予習資料を Bb と授業チームに掲載します。

参考書：南雅彦『言語と文化』くろしお出版、東照二『社会言語学入門』研究社

※ この授業は、4/18（火）が初回です。